

新風

発行 神石高原町議会議員

木野山孝志 後援会

平成30年07月15日 NO.48

発行責任者：橋迫芳隆

神石高原町父木野2953-1

ホームページ <http://www.7a.biglobe.ne.jp/~t-kinoyama/>

6月定例会

三和共同福祉施設改修や 第二定住団地測量用地買収などに予算措置

6月定例会は7日から12日まで開かれ、平成30年度各会計補正予算、条例の一部改正など15議案を審議し、原案のとおり可決・承認しました。また繰越明許費繰越計算書、平成29年度各第3セクター経営状況の報告がありました。

6月補正予算は表（総括表は次ページ）のとおりです。
合計で2億896万円の増額補正となりました。

者）へ売却する。
施設修繕・測量に277万円を計上した。

第2定住団地に追加補正

町は移住定住を促進し、人口増（流出減）を図るために井関地区に第2定住団地整備を計画しているが用地購入（1.7㎡）費として1094万円、測量設計委託料3390万円を追加補正した。

三和共同福祉施設改修

庁舎新築工事に伴う保健センター解体により保健課が三和共同福祉施設に移転、仮事務所を整備のため改修費2466万円を追加補正。

工期は9月から11月15日、12月中に移転。移転後解体。

住宅用団地の売却

豊松新平谷住宅団地用地（超格安で3区画（1区画86坪）を豊松小学校への入学を条件に子育て世代（町外居住

万枚発行する。

1枚62円を57円で発行。町独自のお年玉が当たる企画で町をPRする。

城下町（オリジナル）年賀状の発行に100万円予算化

町の情報を載せた年賀状を5

平成30年6月補正（一般会計）

（単位：万円）四捨五入

費目	補正予算	補正後予算	主な内容
議会費		8447	
総務費	7231	26億0539	庁舎（三和共同福祉施設改修など）2,659、豊松平谷住宅277、年賀はがき100、総合開発特別会計繰出4,484
民生費	2067	21億4619	いずみ保育所給水施設1,722、福祉医療システム95
衛生費	288	14億3138	やすらぎ苑施設水道53
農林水産費	-▲925	12億9024	新規就農・地域営農・園芸ビニールハウスなど830、豊松陽光の里トレ196、産地パワーアップ974、ひろしま農業創生1050、地籍調査▲4,089、中山間▲210
商工費	343	2億6013	自然公園管理（スコラ）140、（きのこの森遊具解体）164
土木費	280	6億2616	公営住宅管理（神石）279
消防費	5	4億4602	消防屯所5
教育費	354	7億5875	神中高原寮34、油木豊松グラウンド整備122、豊松三和体育館修繕195
災害復旧費		3	
公債費		22億6397	
諸支出金	610	4億4980	財政調整基金積立54、減債基金積立11、保健医療福祉基金積立154、企業立地基金積立115
予備費		4000	
合計	1億0253	124億0253	

なにがどうなる

条例改正など

おもなものの

<町国民健康保険条例の一部改正>

- 課税限度額の引き上げ。基礎課税額 54万円→58万円
- 軽減判定所得の見直し。* 5割軽減(27万円→27.5万円) 2割軽減(49万円→50万円)

<町税条例の一部改正>

- 基礎控除額・非課税限度額の引き上げ 10万円
- 固定資産税 課税対象者・・・家屋所有者以外のものが付帯設備を付けた場合対象者となる。
- 固定資産税の減額・・・中小企業の生産向上に資するため新規設備の固定資産税を3年間⇒0円とする。
- 再生エネルギー施設の固定資産税割合の新設
- たばこ税の改正 製造たばこ区分の新設(加熱式たばこの増設など)
 - * たばこ税率の改正(3年間で1本当たり1円の引き上げ)

<町税条例の一部改正>

- 井関地区に新しく「神石高原温泉」がオープン。伴って入湯税を新設。(12歳未満非課税) * 税率 20円/1人(1日)
 - * 目的税なので、税収分は観光振興に使用します。

<がんばる神石高原町ふるさと応援条例の一部改正>

- 寄付者の思いを具体化するための事業に、
 - (6)「ふるさと起業化支援プロジェクト」に関する事業、を加える。



※総務省は「クラウドファンディング型ふるさと納税を活用し地域課題の解決に資する企業」に対し、町がふるさと納税額を超えない範囲で行う補助に対して、同額を特別交付税措置で支援します。

平成30年度予算会計別総括表

単位: 万円(四捨五入)

会計名	H30年度			
	6月補正額	6月補正後予算額	適用	
一般会計	1億0253	124億0253		
特別会計	国民健康保険	685	9億7735	基金積立564
	後期高齢者医療	848	3億9388	一般会計繰出し795
	介護保険	3598	18億2848	一般会計繰出し715、国庫償還2,715
	簡易水道事業	663	2億1913	施設修繕574
	飲料水供設事業		6240	
	農業集落排水事業	365	2億4065	施設維持365
	分収育林事業		10	
	総合開発事業	4484	6294	第2住宅団地(用地購入)1,094、(測量設計など)3,390
特別会計計	1億0643	37億8493		
病院事業会計		5億8191		
合計	2億0896	167億6937		
特別会計+病院事業会計	1億0643	43億6684		

平成29年度事業で30年度に繰り越されるもの(主なもの)

- ・新庁舎建設事業(基本設計など) 3089万円
- ・地域参加映画制作 700万円
- ・地籍調査(豊松地区) 4392万円

平成29年度繰越額が確定
5億9972万8715円

この内2億5千万円を財政調整基金に積立、2億7千万円を使用する。町道の維持管理費など単独町費に使用されます。

第三セクター奮戦中

平成29年度決算

平成29年度第3セクターの決算報告がありました。

百彩館・まるごと市場を除き全て売上高が増加しています。

百彩館・まるごと市場は赤字決算となった。

		売上
市場	売上高	2億6,068
売店	売上高	2,134
軽食	売上高	873
自販機	売上高	451
その他	売上高	141
ローソン	売上高	1億3,667
合計		4億3,334

百彩館売上額は7552万円と前年対比8.5%減となった。果物など新商品の品ぞろえやネット販売、イベントなど積極的に行ったが天候不順などで来店客数は減少、結果的に大きく売上額が減少した。今年度182ステーションとの統合が予定されているが、店舗形態は未定で関係者・地元と協議中。

まるごと市場昨年12月末で出店を中止。3月25日で閉店。売上額は1億3571万円、前年度より25.5%減となった。

農業公社収穫事業・育苗事業を除き他の8事業とも収入が増加した。

当期は通年の地代分と資金繰りの為に1747万円の補助金を投入したが、固定資産の整理なども含め154万円の赤字決算となった。前期からの累積赤字の100万円を加えると、254万円のマイナス利益となった。何故か外部株主11名分55万円を買戻し、純資産額はマイナスの9万3869円となっている。

132万円の黒字。売上高は7408万円（6%増）。補助金収入は1775万円。

スコラ各種イベント開催・アルティメットへの合宿営業など販売、企画へ力を入れ集客数の増加などにより売上高は9904万円と昨年に引き続き増（2.6%）となった。

今後は株エブリイへの出荷となるが、2億円の神石産農産物の販売、最前線基地としての情報発信の役割などが確保できるか。期待したいと思います。

売上伸びと受託業務などにより税引き前利益を131万円計上した。委託料など町からの運営補助金は874万円。今後引き続き、新規集客のため、観光協会などとの連携強化による観光ルートへの拡充や、来客を売上に結び付けるための受け皿づくりなど企画力・営業

力の強化に強められたい。今年度は「帝釈の湯」の改築も行われるが、施設はかなり老朽化しており指定管理の在り様も再検討すべきである。

託・補助金は約216万円。他に、特定役員報酬への町からの特別補助金が668万円ある。ローソンについては、6年を経過し、経営収支は、少しずつ改善しています。が、地域性、冬季の道路条件、フランチャイズ店での店舗展開など、問題、課題は開店初年度とあまり変わり無く経営は厳しい。

さんわ182ステーション

天候不順、農作物の不作により来客数43万5278人（▲1%）となった。売上は4億3403万円（68.5万円増）と僅か増となった。

「リニューアル」は町長の公約で、遊具の設置を手に始めに今年度中に改修予定ですが、売り場面積や駐車場確保、フードコートの運営など課題は山積み。

また、百彩館との統合、株エブリイへの出荷に伴う農産物の確保体制など、どうするのか。昨年的一般質問再見を。

また、百彩館との統合、株エブリイへの出荷に伴う農産物の確保体制など、どうするのか。昨年的一般質問再見を。



*表の見方 単位：万円
上段の数値：総収入
下段の数値：総費用

一般質問

「地産地消の推進方策は」

「地産地消」とは「地元で生産されたものを地元で消費する」という意味で使われる。地産地消への取組みは、地場農業を活性化させ、日本型食生活や食文化が守られ、結果として食料自給率を高める。

地産地消の取組みは、誰が、どの様な範囲で、どの様な活動を行うか分類・把握し、現状分析・成果・課題の検討が必要だ。その意味で、行政として、食育を含めて

- ①学校給食(保育所、小学校、中学校)
 - ②地場農産物の販売(加工品を含めて)
 - ③福祉施設、観光施設(ホテル・レストラン・道の駅など)
 - ④その他、重点的に取り組んでいるもの
- について、その取組み内容と
- ⑤「地産地消」の今後のより効果的な推進方策を伺う。

教育長 ①町内産物を食材として使用している。安定的供給が困難であり活用は限定的だ。

今後も様々な工夫を行い地産地消に努める。

町長 ①保育所では、町内産の米を利用。地産地消給食を年1〜2回実施している。

②町内小中学校へ野菜などを、産直市場を通じて提供している。

加工品は、町有加工処理施設

設で加工。産直市場で販売。

利益率の高い加工品は、6次産業化に併せて進める。

③高原の風レストランでは原材料は主に町内産を使用し、地産地消と農家の所得増大を目指している。

福祉施設では、食材を地元農家や産直市場から購入。

配食サービスでは、町内産の米や野菜を購入。地産地消に努めている。

④地産地消という観点からす

れば、町として重点的に取り組んでいるものは無いが、例えば、「神石高原ランチ」では食材に地元産品を取り入れ、啓発活動を実施している。

⑤町は、「地産地消」の取組みの啓発活動が大切と考えており、今後は、あらゆる機会を取らえて、推進していく。

町内消費量を上回る町内産産物については、積極的に「外に」打って出る、所謂「地産外消」を今後強力に推進する。

木野山 地元産消費状況は。

教育課長 町内全体で約60〇食作っている。安定供給や価額面などで課題も多く、地元産は少ない。

木野山 地元産の使用目標値を具体的に定め計画生産で対応できないか。少しずつ町内産を増やす努力が必要だ。

まちづくり推進課長 新しい

食育推進計画では、感覚的でない増加目標値を検討する。

町長 契約栽培は、保証や単価、栽培環境など課題も多く

現段階では難しいが、検討していきたい。

木野山 地産地消を高めるために、国にも食料産業6次産業化推進交付金など多くの補助事業がある。町も積極的に参加したらどうか。

町長 地産地消の推進は計画に沿って進めたい。

農水大臣表彰「全国優良ランチメニュー」など町に於いて適用できるものがあれば取り組みたい。

木野山 日本国で言えば景気は内需に左右される。

地産地消で言えば地元の経済的なものは地元で消費する、町内のもは1%でも多く町内で消費することが町内を強くし活性化を促進する。

もうワンステップ町内需要を高める施策が必要では。

町長 商工会とも連携し町内の消費動向を細かく調査し対策を考えたい。



元気などんぐり幼稚園児 H30.6.10



三和小学校児童による合唱